

デジタルのすすめ～デジタルカメラを活かして作文をかこう

6年国語科・学習発表会の思い出を作文にして発表しよう（6時間）

富山県砺波市立麗栖小学校 ● 林 誠

情報教育としてのねらい

- ・ 行事や活動の様子がよく分かる場面を選んでデジタルカメラで撮影する。(取材)
- ・ 作文で伝えたいことを表現している写真を選ぶ。または、写真を見ながら、作文で伝えたいことを構想する。(判断)
- ・ パソコンを使い、文と写真で伝えたいことを表現する。(編集・加工)
- ・ 作成したデジタル作文を提示しながら、相手に分かりやすく発表する。(伝達)

国語科としてのねらい

- ・ 作文に対する苦手意識を少なくする。
- ・ 簡潔に表す文と詳しく伝える文を意識して書き分ける。
- ・ 家族にがんばりを伝えられるような書き表し方を工夫する。

デジタル表現としてのねらい

- ・ elementsの新しい機能(レイヤー)を知り、自分らしい表現に生かす。

実践の概要

行事作文は苦手！という子は、そのときの場面を具体的に思い出せないことが多いようである。そこで、デジカメの出番である。いろいろな場面を撮りためておけば、あとで作文を書くときの振り返りに役立つ。また、絵日記のようにその写真を入れた作文を書けば読む人にも様子が伝わる。パソコンを使って書くことで、書き直しや編集も自由自在。デジタルカメラを活用して、書きやすく、分かりやすいデジタルな作文(=デジブン。デジモンじゃないよ)にトライしてみよう。

ここでは、学習発表会でのがんばりを作文にするだけでなく、ステージ発表だけではわからない裏方の様子や制作過程までも含めて家の人に伝えようというめあてがある。伝えたい相手がはっきりしていると、表し方にも工夫がでてくる。

作文はオレも
苦手だったよ
なあ…。



○学習の流れを見てみよう

学習活動	教師の手立て、準備するもの
<p>1 学習発表会までのいろいろな活動をデジタルカメラで記録しよう。(1時間)</p> <p>・どんな場面を記録するか話し合う。 ・デジタルカメラの使い方やパソコンへの保存の仕方を確認する。 【ポイント1】</p>	<p>(準備物) デジタルカメラ、パソコン ・デジタルカメラの保管場所や、撮影した画像はすぐに取り出してパソコンに保存することなど、これからの撮影活動のための約束を決めておく。</p>
<p>2 作文の構想を立てよう。(1時間)</p> <p>・撮りためた写真を見ながら、書き表したいことやその様子を書いた写真をワークシート(作文メモ)に記入する。 【ポイント2】</p>	<p>(準備物) ワークシート ・撮りためた写真をどの子も見ることができるようしておく。写真を保存する場所を決めておくことよい。 ・「一番書きたいこと」から記入するように言葉かけする。</p>
<p>3 「学習発表会の思い出」作文をパソコンで書こう。(3時間)</p> <p>・作文メモを見ながら、パソコンを使って作文や写真をまとめる。 【ポイント3】</p>	<p>(準備物) 作文のひな形 ・書き込むためのひな形(テンプレート)を準備しておく。自由に使えるようにしておく。</p>
<p>4 作文の発表会をしよう。(1時間)</p> <p>・写真付き作文をプロジェクタで投影しながら、家の人の前で発表する。 ・友達発表のよさを評価し合う。 【ポイント4】</p>	<p>(準備物) プロジェクタ、評価カード ・発表は作文を朗読するだけでなく、必要な場面写真などを添えて、プレゼンテーションを意識して行わせたい。</p>

○指導時のポイントはここだ

作文を書く際には、キーワードやキーセンテンスを意識させることが大切です。それを考える手助けにデジタルカメラの画像を使います。表現したい場面の写真があれば、子どもたちはその時の様子や気持ちを生き生きと思い起こすことができるでしょう。必要な画像をその時々できると取りためておくことがポイントです。

ワークシート(作文メモ)には、写真と同連づけてキーワードやキーセンテンスを記入し、それらを並べ替えながら文章の構成を考えることができるようにします。

実際の作成には、子どもたちのパソコン操作技能がわかっているため、見栄えよりも、伝える相手を意識して分かりやすくできたかどうかを重視してください。

【ポイント1】

いろいろな場面を写そう

作文に使うことを考えて、自分が活動する場面、がんばった場面をなるべく多く記録しておく。

【ポイント2】

写真を見ながら作文の構想を練ろう

一番書きたいことや、その場面の写真を決めてワークシート(作文メモ)に書き込む。

学習発表会は、準備から本番までかなりの時間があります。「がんばりをデジタルカメラで記録しておこう」と投げかけることで、活動そのものが音楽的になります。

多人数で1台のデジタルカメラを使う場合は、撮った写真をなるべく早くパソコンに保存しましょう。カメラの中がいっぱいになって、次に使う人に消されてしまう危険があるからです。

保存するときは「制作の練習」「習作作品」などに分類して整理しておくことで便利です。

発表会が終わったらいよいよ作文を書きます。撮りためた写真を見ながら思い起こし、作文の構想を練ります。

下の図のように、一人一人が写真の一覧を見ながらワークシートに向かえる環境があると理想的です。



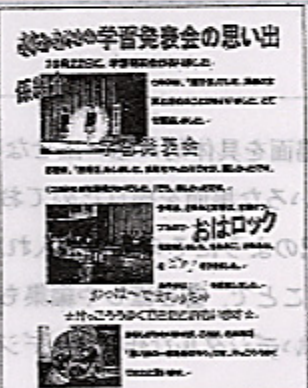
【ポイント3】

写真と文で分かりやすく表現しよう

作文メモをもとに、写真と文を組み合わせて分かりやすいデジタル作文を書く。

実際に作文を書く際には、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを使います。使うソフトウェアを自由に選択してもよいのですが、あまり日常的に使っていない場合は、写真を貼りつける場所や文字を書く場所の決まったひな形を教師が作って用意しておくことよいでしょう。

ワープロソフトは文を書くために使い慣れていることが多いので、使いやすいという利点があります。一方のプレゼンテーションソフトは、レイアウトが自由で、発表するとき動きを加えることができるなど、見栄えがよいという利点があります。いずれにしても、写真を貼りつける位置を考えたり、文字色や



▲ワープロソフトを使って作成した例(一部)

書体を変えてキーワードを強調する工夫をしたりすることで、より分かりやすいものになります。子どもたちは意欲的に取り組みます。

また、作品はパソコンに保存しておくので、制作途中でも、気軽に友達と見せ合って工夫を半だり手直しをしたりすることもできます。



▲作文をプロジェクタで投影しながら発表しています。プレゼンテーションと同じです。

【ポイント4】

作文をプレゼンしよう

作文をプロジェクタで投影しながら、家の人に分かりやすい話し方を工夫して発表する。

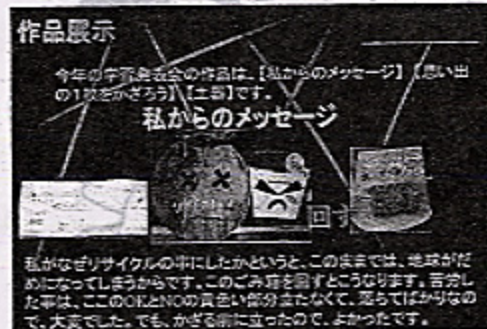
作文が完成したら、発表のための準備をしましょう。作文は印刷して、自分の発表用紙として使いますが、コンピュータでプロジェクタにつないで、プレゼンテーションの資料としても使います。

名のクラスでは授業参観の日に行いました。家の人にわかりやすく伝えるために、作文をただ朗読するだけでなく、写真を示して「このときは……」と解説したり、「この表情をよく見てください」と語りかけたりしながら発表するように指導しました。

プレゼンテーションを意識させることで伝わり方も全く異なります。

また、友達発表のよいところを見つけるための評価カードを用意しておき、相互評価をしながら聞き合うようにすると、聞く子どもたちも真剣に取り組みます。

▼プレゼンテーションソフトで作成した例



○デジタル作品のよさ

デジタルカメラの写真と文章でプレゼンテーションを行うという活動は、社会科で、調べたことをまとめる場面などでも活用できます。

このように、子どもたちの作品をデジタル化しておく、本実録のようにプロジェクタで投影したりできるほか、クラス全員の分をまとめて保存したり、電子メールに添付して

送ったり、フロッピーディスクやCD-R/DVDに記録して子どもたちに配ったりなど、さまざまな使い方ができます。

私の学級では、今年撮りためたデジタル写真や子どもたちの書いた作文、作ったホームページ、教師が作った学年だよりなどを整理して、CD-ROMに焼いて卒業記念に子どもたちに渡すことにしています。